

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272300955		
法人名	社会福祉法人 三笠苑		
事業所名	グループホームサンライフ三笠		
所在地	青森県平川市館田西和田201-2		
自己評価作成日	令和 4年6月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.mikasaen-hp.com/nyusho
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年7月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各自の個性を尊重しながら、集団体操をしていただいている。ADLが低下して車椅子になられても、住み慣れた場所で生活していただけるよう、職員皆で協力している。家族が希望する場合は看取りケアも行っている。毎日午前はレクリエーション活動をしており、ラジオ体操をはじめ、軽体操(リハビリ体操、ズンドコ体操等)、ゲーム、歌唱を行っている。中学生の体験学習や福祉大学の実習の受け入れ(現在は新型コロナウイルスのため中止)も行っており、入居者の活性化に繋がっている。訪問看護ステーションと24時間体制で連絡を取ることができる他、内科消化器・肝臓クリニック、歯科クリニックが定期的に往診していただき、入居者の健康面では安心できる体制である。感染拡大のため、1月下旬より面会を中止していたが、感染状況を踏まえて、7月より面会制限がある中でも条件付きで、感染対策を行いながら面会を再開する予定である。面会時は面会者の体調確認、換気、マスク着用、手指消毒を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の関連施設である訪問看護ステーションや協力医療機関との連携により、重度化や看取りの対応を行っており、利用者が最期まで安心して生活できる環境を整えている。
 コロナ禍前は、町内会の行事への参加や地域ボランティアの訪問受け入れ、地域サロンの開催等、地域住民との交流を盛んに行っていた。
 また、法人にはグループホームの他、介護老人保健施設やケアハウス、生活支援ハウス等もあり、地域における重要な社会資源の一つとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念、努力目標、事業所努力目標を毎朝唱和し、理念の実践に向けたサービスに取り組んでいる。	ホーム独自の理念があり、ホーム内に掲示している他、毎日の朝礼時に唱和する等、全職員で共有化を図っている。職員は地域密着型サービスの役割を理解しながら、日々、理念を意識したサービス提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方や知人の面会等の交流がある。現在は新型コロナウイルスのため、外部との交流を控えている状況である。	コロナ禍前は、地域のボランティアの訪問や友人・知人の面会を積極的に受け入れる等、日頃から地域住民との交流を図っていた。現在は広報紙を町内会に配布する等、ホームの取り組みを知っていただけるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの広報誌を隔月発行し、地元の町内会に回覧して、ホームの理解、交流に努めている。年1～2回サロンを開催し、地域の方の認知症理解に努めていたが、新型コロナウイルスのため、中止している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は新型コロナウイルスのため、各担当者に文書を送付して確認していただき、意見を返送していただき、会議を行っている。(書面協議)	コロナ禍のため、書類のやりとりで会議を行っている他、先日は感染対策を講じながら、対面での会議を開催している。ホームでは、メンバーから出された様々な意見や提案を、今後のサービス向上のために活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度・業務上の疑問点、書類作成のアドバイス等、相談にのっていただいている。地域包括支援センターの研修にも参加し、協力関係を築いている。	運営推進会議に市の担当者の参加があり、様々な意見等をいただいている。また、運営上での問題点や課題等があれば、その都度ファックス等でやり取りし、日頃から連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の学習会を行い、職員が身体拘束をしないケアについて理解し、入居者に対しても声掛けや見守りを第一に対応している。	身体拘束適正化委員会を設置している他、法人のグループホーム全体での勉強会も実施しており、職員は身体拘束の内容や弊害について理解している。職員は利用者の動向を見守りながら、身体拘束はしない方針で日々のケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	運営推進会議の中で状況を報告している。また、外部研修や内部研修等で学ぶ機会を作り、全職員が虐待に対して強い認識を持ち、統一したケアを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用されていた方がおり、職員が研修を受講したり、講演を聞く機会を持ち、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、家族に重要事項説明書で説明し、疑問点等についても丁寧に話して同意を得ている。退去に関しても家族と話し合い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年1回、家族アンケートを実施しており、その意見を基に業務改善を行っている。職員だけでは気づかない部分もあるので助かっている。	職員は日頃から利用者とのコミュニケーションを大切にしており、気軽に話せる関係づくりに努めている。また、家族代表が運営推進会議のメンバーになっている他、家族アンケートも定期的にも実施し、意見をいただきながら、より良いホーム運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議、ケアカンファレンス、申し送り等、職員が意見を出し合い、提案にも対応している。	自己評価表の記入や会議、申し送り等を通じて、職員の意見や提案を把握している。また、職員同士のコミュニケーションをよく図り、風通しの良い職場づくりに努めており、出された意見を検討し、サービス提供に反映できる体制を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期昇給、退職金制度があり、職員のやりがい等に繋がっている他、資格取得に対する助成金も設けている。また、時間外等の手当の支給もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には積極的に参加している他、内部研修としてグループホーム内の研修も年4回程実施している。研修内容は回覧し、全職員が内容を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回、法人内のグループホーム6事業所の管理職会議を実施し、情報交換をしている。青森県グループホーム協会の定例会研修会にも参加し、交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に必ず家族・本人と面談し、話を聞くことで情報を得ている。本人・家族の要望やADL等を確認し、ベッドの配置等を工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新型コロナウイルス対策をした上で、相談に来た方にはホーム内を見学していただき、ホームの雰囲気を感じていただくようにしている。不安・困っている事の相談にのり、安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで対応できる事は対応し、無理な時は他部署との連携を図り、本人・家族が必要としているサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	四季の行事や料理、その他の様々な場面で入居者の意見を聞き、教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回、家族へお手紙を出し、入居者の様子を報告している。また、入居者が心穏やかに生活できるように、常に家族と連携を図り、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や友人の面会を積極的に勧めている。現在は新型コロナウイルスのため、家族の面会のみ設けている。	利用者との日々の会話の中から、馴染みの人や場所を把握している。市の図書館に行って本を借りたり、畑に出かける等、利用者が希望する馴染みの場所へ出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士でも気の合う方、そうでない方がいるので、職員が間に入り、お互いの意見を聞くようにしている。また、入居者同士が交流できるよう、レクリエーション活動を通して支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により他施設に移られた方についても、相談があった時は話を聞き、他部署と連携を図っている。退去先の関係者に対し、入居者の状況等を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が声掛けし、入居者の思いや意向をできるだけ把握するように努めている。家族にも本人の思い等を聞くようにしている。	職員は日々のケアの中から、利用者の思いや意向の把握に努めている。また、家族や関係者からも情報収集を行い、全職員で本人本位で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	様々な機会での生活歴、生活環境がわかることが多いため、職員全体で情報を共有し、その方に合ったケアをするように努めている。また、入居者のプライバシーを守ることも職員で統一している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームの日課表はあるが無理強いせず、本人の状態に合わせた過ごし方をしている。居室で過ごされることが多い方には定期的に訪室し、声掛けをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は訪問看護師、主治医、家族、本人にも出席していただき、話し合いをしている。出席できない方には文書で意見をいただき、多くの方の意見を反映した介護計画を作成している。	介護計画作成時は利用者や家族の意向を確認している他、主治医や訪問看護師の意見も取り入れている。目標設定期間を明示して、定期的な見直しを行っており、現状に合った介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に介護計画も付けて、記録時にケアプランに対する記録も記入している。モニタリングも実施し、見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診等の時は介護タクシーの利用を組み合わせて、家族と施設の負担軽減を図っている。入居者の希望を取り入れ、行事を計画している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の図書館より定期的に本を借りて、入居者に読んでいただいている。現在は新型コロナウイルスのため、苑外活動や地域のボランティア活動の受け入れは控えている状況である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科や消化器科等の往診があり、状態に変化があった時は随時連絡を取り、対応していただいている。また、その他の医療機関にも定期的に通診しており、歯科の往診もある。	入居前の通院歴を把握し、利用者や家族が希望する医療機関の受診を支援している他、希望に応じて、協力医療機関の往診も受けられることができる体制である。また、眼科等の専門医の通院は家族の協力を得ており、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携契約をしており、毎週月曜日午前には看護師が都度血糖値を測定し、入居者の体調について相談に乗ってもらっている。また、夜間にも対応し、24時間体制で連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院・家族との連携も密にして、事業所での生活状況等について情報交換し、本人の通常時の状態を継続できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、事業所の方針を説明し、事前確認書にて同意をいただいている。入居者が重度化してホームでの生活が困難になってきた時は、再度家族と話し合い、家族がホームでのターミナルケアを希望する場合は、医療機関との連携をとって対応している。	重度化や終末期の対応について、入居時にホームの方針を文書で説明しており、利用者や家族の意向を尊重して、希望があれば、看取りの対応を行う体制である。また、日頃から協力医療機関や訪問看護師との連携を図っており、家族も含めたチームでの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の6事業所で学習会を行ったり、緊急対応時のマニュアルを作成している。職員は普通救命講習を受講し、AEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、隣接施設との合同避難訓練を行い、ホームで夜間想定避難訓練を年1回、緊急連絡網の訓練も行っている。居室入口に入居者のADLの絵を貼り、避難時に備えている。また、非常災害時の災害物資も備えている。	年2回、隣接施設との合同避難訓練を行っている。また、災害時に備えて、1週間分程度の食料や飲料水を備蓄している他、ストーブや毛布等も用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性を尊重し、その方に合わせた対応をしている。尊敬の気持ちを忘れず、プライバシーにも十分に配慮している。	職員は常に利用者を尊重し、言動を否定しない対応を心掛けている。また、職員の声掛けや対応で気になることがあった時は、管理者がその都度注意し、改善に向けた取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がいつでも入居者の相談に対応できる体制でケアをしている。行事や苑外活動への参加については、必ず本人の意思を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課表はあるが、本人のペースに合わせて過ごしていただいている。ホールでテレビを見たり、談話をしたり、新聞を読んだり、歩行訓練をする等、様々に過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、床屋さんに来ていただいている。外出時、女性の入居者は何を着て行っているのか、服をたくさん出して迷っているので、一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日は本人の食べたいものを聞き、献立に反映させている。後片付けやお盆拭き等は、生活の維持のために入居者に手伝っていただいている。	献立は管理栄養士が作成し、職員が禁忌食に配慮して手作りの料理を提供している。また、利用者の誕生日には希望するメニューを全員で食べる等、食事時間を楽しく過ごせるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がバランスを考えたメニューを作成している。入居者に合わせ、粥・刻み・ミキサー・とろみ等、形状を変えている。食事・水分摂取量を毎日記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアや義歯洗浄は毎回実施し、夜間は義歯消毒をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的なトイレ誘導や声掛けを行い、排泄パターンを記録して習慣化し、できるだけ失禁を少なくして、トイレでの排泄ができるようにしている。	毎日チェックを行い、利用者の排泄状況を把握しており、パターンに応じて声掛けや誘導を行っている。また、随時、適切な排泄用品の使用を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服薬だけに頼らず、食材の工夫をしている。毎朝、ヨーグルトや牛乳、ヤクルト、季節の果物の摂取をしている他、水分量を確認しており、自力摂取できない方には介助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日は週2回となっているが、外出や体調不良で入浴できなかった方は、変更している。入浴日でない場合は足浴を行っており、皆が楽しみにしている。	利用者個々の習慣や希望に合わせた入浴支援を行っている。入浴を拒否する利用者には無理に勧めず、時間や日にちを変更する等、利用者のその日の体調や状況に合わせて、柔軟な対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週1回、リネン交換を実施している。室温に合わせて掛け物を調整したり、入居者の体調に合わせて衣類調整を行っている。夜間は1時間に1回の巡視をし、安全確認を行いながら、館内の温度・湿度を確認して室温を管理している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の飲み忘れが無いよう、手渡しで服用を確認している。介助が必要な方にはとろみをつける工夫をしている。受診後に変更があった方は記録し、全職員が把握するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞を読むのを毎日の日課にしている方やお茶やコーヒーを飲むのを楽しみにしている方等、様々である。外出時は新型コロナウイルス予防策を講じて、家族の協力や職員により、気分転換を図るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と一緒に外出した際に外食や買い物やされたり、一日ゆっくりと家族と過ごして温泉に行く等、家族の協力で出かけている。現在は新型コロナウイルスのために控えている状況である。	コロナ禍で遠出の外出支援は難しい状況であるが、天気の良い日は敷地内を散歩したり、畑までドライブに出かける等、利用者の楽しみや気分転換に繋がるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理ができない方は、家族に委任状に署名していただき、お金をホームで預かっている。受診時、必要時に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時、職員が電話をかけて、家族との交流を支援している。また、携帯電話を持参する方はトラブル防止のためにホームで預かり、希望時に本人へ渡し、終了後は預かっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに鉢植えを置いたり、ホールの壁画を月毎に変え、季節感を出している。廊下の所々に椅子を置き、休めるようにしている。また、事業所内は冷暖房を完備して、温度調節をしている。	窓から入る日差しは十分で、ホーム全体が明るい雰囲気である。また、季節の変化を感じることができるよう、ホールの壁には利用者が作った壁画を飾る等、工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者がお互いの顔が見えるよう、ホームのテーブルを配置し、和やかな雰囲気を出している。現在は新型コロナウイルスのため、ソーシャルディスタンスを保っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で大切にしていた物の他、位牌等を持ってきて自分でお供えをしている。馴染みの椅子や棚を持ってきたり、家族の写真も飾る等、本人が居心地良く暮らせるようにしている。	入居時に馴染みの物を持って来ていただくように働きかけており、使い慣れた机や椅子等の持ち込みがある。また、利用者の意向を確認しながら、落ち着いた雰囲気の中で過ごせるよう、居室づくりを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内には手すりを設置し、所々に椅子を置き、休憩できるようにしている。自分の部屋を認知できない方には少し大きめの名札を貼ったり、目印となる物を下げて対応している。		